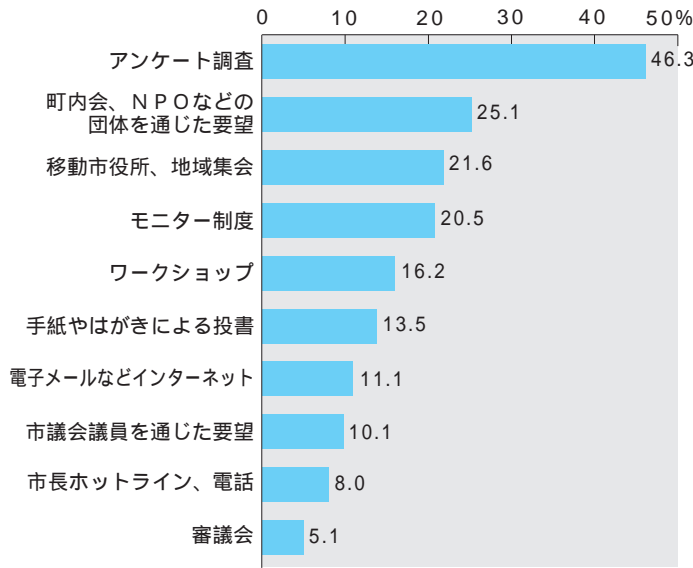


## 広聴の方法は？

複数回答  
(二つ以内)

「アンケート調査」が46・3%

市民の声を市政やまちづくりへ効果的に反映させるには、どんな方法がふさわしいか。最も多かったのが「アンケート調査」で四六・三%と半数近くを上っています。次いで、「町内会・NPOなどの団体を通じた要望」「移動市役所・地域集会」「モニター制度」の順。これに対して、「審議会」「市長ホットライン・電話」は低い割合にとどまっています。

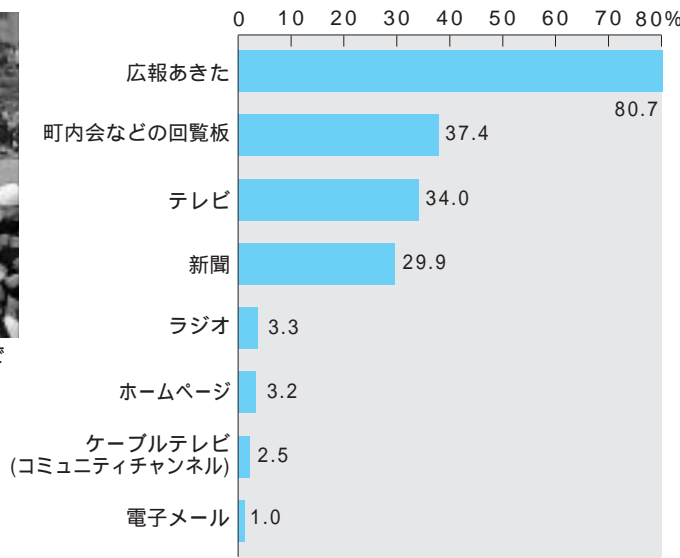


## 広報の方法は？

複数回答  
(二つ以内)

市民に浸透している「広報あきた」

市政情報などの望ましい広報手段については、「広報あきた」が八〇・七%と広く市民に浸透していることがうかがえます。以下、「町内会などの回覧板」「テレビ」「新聞」となっており、以上四つのメディアへの集中度が高い結果となっています。今後は、ホームページやケーブルテレビなど新たなメディアを視野に入れた広報活動も進めていきます。



御所野地区の大運動会で

## インターネットの利用は？

今後の情報交流媒体として期待

インターネットを利用し、「ホームページ」を見ている「割合は一四・七%にとどまっています。「興味はあるが見ることができない」(五・三%)と「興味がないので見ない」(二六・二%)を合わせた、「利用していない人・できない人」は八割近くにのぼり、まだ十分にインターネットが普及していない状況を示しています。

しかし、「興味がある」という回答が半数を超えており、今後の技術革新や低価格化による普及を考えると、市民と行政との新たな双方向交流媒体として、その果たす役割は大きくなるものと考えられます。

